

(公社) 日本給食サービス協会会長賞

『あと百二十一回』

広島県呉市立阿賀小学校 六年一組 女子 実下 桃花

「あと百二十一回かあ。」

私はうだる様な暑さの中、やっと母がエアコンのスイッチを入れた頃数え終わりでした。この数字は私が年間行事予定表を見ながら、あと何回給食を食べられるか。という数字です。

私が住む地域にある中学校では、デリバリー給食という名前にかわり、姉の話では、冬はとても冷たくおかずの汁は他のおかずの味を変えてしまっているお弁当。というあまりいい説明を聞けませんでした。それを聞いてからはとくに、小学校のあたたかい物はあたたかいまま、冷たい物は冷たいまま、アイスもとける事なく頂く事ができるありがたさを感じながら、給食を日々おいしく頂いています。

人生で残り百二十一回。中学ではデリバリー給食というお弁当。高校でも食堂で給食はない様で、姉の通う県立の高校では食堂すらなく、毎日母のお弁当を持って行きます。大学に行っても給食はないそうです。それを知って私はとても残念に思いました。小学校一年生の時ののはじめての給食は、六年生のお兄さんとお姉さん達がやさしく声をかけてくれて配膳を手伝ってくれました。ワクワクとうれしさでいっぱい胸を落ちつかせて食べたシチューは、とてもおいしくて学校に行く事が不安だったけれど、給食という楽しみがあったので学校に行く事も楽しみに変わりました。私が六年生になって、一年生の配膳を手伝う事がありました。一年生の給食はじめての日にお手伝いをさせてもらえました。その日のメニューは私も大好きなカレーライスでした。一年生の教室に行きエプロンを着て、ワゴンの所までカレーを取りに行き、教室にもどると、少し緊張した顔の子、ワクワクしている気持ち顔に出ている子、興味津々でイスから少しおしりをうかせて首をのびしながらこちらを見ている子と様々でしたが、全員そろって静かに待っていました。私はみんな小さいのにきちんと座っていてすごいな。と思いながら見ていると、一列にらんで配膳タイムです。私はカレーを入れる係でしたが、時々、「これくらいかね。大丈夫かね。」

給食が好きになるように、そして学校が好きになるようにと思いを込めて声をかけました。

給食は栄養をとるとともに、苦手な食べ物をごくふくするきっかけ、そして学校に慣れる事、好きになる事のきっかけになります。私はあと百二十一回の給食を楽しみに残りわずかな小学校生活を楽しく過ごそうと思います。そして、給食が食べられなくなる悲しんでばかりではなく、母の作るお弁当が毎日食べられる様になるので、前向きに生きていこうと思います。